

第14号

会報 めいおんの会

発行 平成27年12月15日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

51年目のめいおんへ

名古屋音楽大学 学長 高橋 肇

今年、名古屋音楽大学は創立50周年を迎えました。名古屋音楽短期大学として創立されて以来50年、本学は中部地区でもっとも歴史と伝統のある音楽大学として、歩み続けてまいりました。今後もその歩みは止まることはありません。

名古屋音楽大学は、学生たちにとっての「それぞれの音楽、それぞれの可能性」を大切にしながら「育てる大学、育つ大学」として、今後も進化し続けます。音楽という「専門を究めることで、人間力を鍛える」ことを教育の基本に置きつつ、新しい時代の音楽に取り組んでまいります。

名古屋音楽大学は三つの領域におけるクロスオーバーに取り組めます。

一つ目のクロスオーバーは、classical と popular というジャンルを超えるということです。あらゆる古典も昔は現代音楽でした。これまで、日本の音楽大学は主として classical な音楽に取り組んでまいりました。classical という言葉には古典的という意味の他に、階級的という意味があります。対義語は popular です。一般的、大衆的という意味の他に、人気のあるという意味があります。

二つ目は、時代を超えるということです。今年で4回目となりますが、チェンバロやパイプオルガンをメインに「ムジカ・ダ・カメラ」という演奏会に取り組んでおります。バロック音楽を始めとする、古典派音楽以前の時代の音楽にも積極的に取り組んでまいりたいと思います。すでに現代音楽にはいろんなジャンルにおいて取り組んでおりますが、時代を超えた音楽のクロスオーバーにますます積極的に向き合っていきたいと思います。

三つ目のクロスオーバー領域は、地域と世界です。本学には邦楽コースがございます。箏・三味線・尺八だけでなく、創立以来、笙・箏などの雅楽にも取り組んできた伝統がございます。また、ガムランなどの民族音楽にも積極的に取り組んでまいりました。西欧という地域や民族を超えた音楽のクロスオーバーに取り組めます。

以上、三つの領域におけるクロスオーバーに取り組むことで、地域と世代と世界に開かれた音楽大学を目指します。

名古屋そして愛知が、より普遍的でより個性的な音楽文化の一大発信拠点となるよう、微力ではありますが、関係者一同、精一杯に努力してまいり所存です。どうか皆様方からの旧に倍する社会的なご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成27年度 役員・参与・顧問 ~よろしくお願ひします~

会長	百合草 薫 (名古屋・東丘小トワイライト)	会計監査	中村由美子 (名古屋・宮中)
副会長	川合 恒之 (名古屋・扇台中校長)	参与	高橋 肇 (名音大学長)
庶務	藤松 真人 (名古屋・名塚中教頭)	同	松下 雅人 (同音楽学部長)
同	塚寄 崇史 (名古屋・守山西中)	顧問	小泉 孝 (同教職指導室)
会計	宇佐美ほたか (名古屋・東陵中)	同	吉川 範行 (同教職指導室)

総会・研修会・懇親会

8月23日（日）名古屋音楽大学 博聞館D101教室・学園食堂

総会では、会則に従い、会長の選出・役員委嘱を行いました。昨年度の事業報告、決算報告並びに本年度の事業計画案、予算案が承認されました。

研修会は、「さあ！ はじめよう鍵盤ハーモニカ」と題して、名古屋音楽大学大学院特任教授の松田 昌先生を講師にお迎えして行いました。研修は「リベルタンゴ」など、鍵盤ハーモニカとは思えない素晴らしい演奏をしていただいた「ミニコンサート」から始まりました。その表現力に驚かされるとともに、完成度の高い音楽に純粋に感動することができました。

続いて、実技指導をしていただきました。すでに定番となった必ず子どもたちが喜ぶという「頭でのピアノ演奏」と「ホースを使った象さんの鼻」による導入の紹介に続き、基本となる腹式呼吸について学びました。その中で、口から息を吐きながら鼻から吸う

「循環呼吸」にも触れられました。この呼吸法を一朝一夕で習得できるはずもありませんが、メカニズムを知ることができ、大きな刺激になりました。さらに技法の中から「ピブラート」と「タンギング」を教えてくださいました。鍵盤楽器に属する鍵盤ハーモニカですが、息を使って音を出すことで、繊細な表現の工夫をすることができ、管楽器と思うほどです。特にタンギングは表現したい音に応じて、「T、K、R」など柔らかい音色や固い音色により、表現の幅が広がることを教えてくださいました。

そのような基本を教えてくださいました後で、先生の新刊「マサさんの さあ！ はじめよう鍵盤ハーモニカ」（2015,5 発行）から数曲を演奏しました。小学生でもすくすく取り組めるような曲も、素敵な伴奏が用意されており、意欲を引き出す工夫がされていました。最後は「インザムード」や「アヴェマリア（カッチーニ）」の合奏を全員で楽しみました。合奏しながらも、「ふわぁっと始めたいときには、先に指を置いて、後から息を吹き込むようにするとうまくいきます」など、的確なアドバイスもいただきました。



松田先生は皆さんがご存じのように、かつては電子オルガン奏者として、全国的に活躍されていました。そんな先生が鍵盤ハーモニカと出会い、ご自身の工夫の中からこの楽器の大きな可能性を感じ、その魅力を引き出されています。そんな先生の言葉は、パイオニアとしての説得力に溢れていました。また、ご自身曰く、「関西人のユーモアとサービス精神が源だ」とおっしゃって見えました。本当に気さくに接していただけることもあって、長時間の研修でしたが、内容の濃い、しかも笑いの絶えない楽しく充実した時間を送ることができました。

懇親会は、学園食堂2階で行い、講師をしていただいた松田先生と、学長の高橋 肇先生、学部長の松下 雅人先生、教職担当の柴田 篤志先生、教職指導室の吉川 範行先生にもご参加いただきました。今年度は東海三県を始め、遠く長野県からの参加もありました。和気あいあいとした雰囲気の中、松田先生からは、研修では話さなかったお話を伺うことができました。また、新たに教職に就かれた方からの初々しいお話を聞いたり情報交換をしたりして、同窓・同職のつながりをつくる機会になりました。



【編集後記】

◆松田先生の著作「マサさんの・・・」にある教材は、リコーダーにも活用できるようです。とてもおしゃれな伴奏が子どもたちの意欲を高めることでしょ。中学校で活用できる教材も掲載されています。◆先生は、音楽の楽しさだけでなく、低学年からの音楽性を高める指導の大切さについても熱く語っておられました。◆松田先生を学校に招いてコンサートをしてみませんか。ご希望の方は事務局まで。(ゆ)